

【議事】定 10

(1) 宇宙ステーション補給機(HTV)に係る安全の確保に関する調査審議について

JAXA の虎野プロマネが資料 10-1-1(HTV の詳細設計終了)を説明した後、下記の短いやりとりがあった。

松尾: 必ずしもそういう目的ではないかもしれないが、井口先生であったら何処かでディメンションが欲しかったと仰るであろう。

JAXA 虎野: 失礼しました。次回の説明には必ずつけるようにします。

松尾: 2 ページ目の絵で、右下の人物の身長が分かっても良いのであるが。

JAXA 虎野: 口頭で説明させていただく。全長は約 10 m、直径が 4.4 m、重さが荷物分を含めて 16.5 トン、荷物分は 6 トンである。

続いて、文科省の池原参事官が資料 10-1-2(安全審査)を説明した後は、質問がなかった。

(2) 第3回センチネルアジア共同プロジェクトチーム会合の開催結果について

JAXA の森山室長が資料 10-2(センチネルアジア)を説明し、サンプルの写真を見せながら、このプログラムを通じて提供する情報について紹介した。その後、下記に示す活発な質疑応答があった。

池上: 東南アジアが期待していることは理解できる。主催が JAXA と書いてあるがこれはどういうことか。ALOS を基本にしているので、**未来永劫 JAXA が主催するということが¹**。

JAXA 森山: APRSAP の 12 回目に JAXA が提案したという経緯がある。基本的に、アジアで情報を共有するプラットフォームなので、JAXA が運用するシステムではなく、アジアの参加国皆がそれぞれ必要な分担をし、運用して行くものである。ただ、現時点で **JAXA がかなりの部分をサポートしないと動かないことがあり、JPT の会議に関してサポートをしている²**。

池上: 全体を取りまとめる委員会は、アジアベースでもあるのか。それとも一方的に提供して、アジア各国が必用なときに取るというものなのか。Google Earth 的な話で終わっているのか。

¹ 質問の根底にある趣旨が判らない。最後まで発言を聞いていると、東南アジアに期待して貰うことを「善し」としているようである。そうになると、「ぶら下がり続けられるのは鬱陶しい。」と言っていることになる。外交的な効果を期待しているのであれば、少々の手間暇は覚悟する必要があり、手を引くことが脅しと同じ効果を生むような仕掛けが必要である。

² 将来、後で糸を引くことができるように、万全の構えができており、今は先頭に立つ時期に在ると言うなら良い。

JAXA 森山: JPT が正にそれを議論する場で、JAXA が何かを一方的に決めたり、一方的にデータ提供したりするのではない³。

各々が提供できるデータや、教育研修の分担の議論を始めたところである。特に、教育研修に関して、JAXA が過去 13 年間やってきたが、やりきれないので、インドネシアやタイなどキーになるところにおいて、教育拠点を作り、近隣諸国の災害利用のための教育をして貰うような展開が進んでいる。

池上: 去年 6 月末にチーフ・インフォメーション・オフィサーの集まりがあり、アジアの方々が人材育成に強い関心を持っていることを聞いた。それもカバーするということか。

JAXA 森山: そうです。当初はリモートセンシングの技術研修として行なっていたが、レベルが違うために、それだけでは不十分であることに気付いた。衛星データから情報を引き出す能力のあるところもあるが、殆どが結果を出してあげないと使えないし、結果の判読方法も分からない。そこで、判読の方にシフトした研修をやるようになった。

池上: 日本は複数の官庁が囁んでいる⁴が、その連携で困っていることはあるか。

JAXA 森山: アジア防災センタと一緒に内閣府のスーパーバイズを

行なっているこのシステムは、内閣府の管轄する ADRC のメンバー国と、センチネルが新しく作った 19 カ国との間のギャップを無くすことが一つの課題である。また経産省の Geo Grid のように既にできているものがあり、載せているデータが違い、高度な形のデータと生データがあり、これらをユーザーに合わせたものに見直そうと、話をしているところである。

池上: 現場レベルでスムーズに動くように進めているということか。

青江: 去年の秋と比べると前進しており、非常に良い。このように歯車が回れば良いと思う。一方、3 回目は、2 回目より、参加者が減っているのではないか。何か理由があるのか⁵。特に韓国とインドと中国、後はオーストラリア、これは何ですか。

JAXA 森山: センチネルのほうに問題があったのではないと考えている。丁度同じ時期に ALOS のデータノードの国際会議がオーストラリアで開催され、オーストラリアはそちらに参加者を取られた。インドは不参加の連絡があり、開催後に個別会談をしたいと言っている。中国は特段の連絡が無かった。韓国とは 1 ヶ月前に担当が行って調整を行った。特に理由の報告を受けていないが、他の会議とぶつかったと思っている。

青江: タイ⁶はランドサットのデータを載せることになった。中国、韓国、インドも衛星を持っており、それで協力すれば情報が整うこと

³ 確かに、そのように表現するしかなかろう。しかし、宇宙で活動する技術を持たず、宇宙活動の成果を努力無しに受け取れる場に参加するものは、その分野での戦略的思考能力を持たない。戦争の状態に突入しないための不断の努力の結果が平和であることを知らない、日本の平和論議が戦略的でないのと同じであろう。現実には JAXA がしっかり先導しなければならない。

⁴ この質問の趣旨と、これに続く回答が違っているようである。

⁵ 宇宙活動に向けた、各国の戦略構想が異なることを考慮しなければならない。60 年前の国際政治力学で考えている国の言動は、「宇宙政策」をもたない日本人には理解できていないと思う必要があるのではないか。

⁶ タイは、韓国、中国、インドとは違う取組をしているのではないか。勉強不足なので疑問提起に止める。

になる。それはどのような感じなのか。

JAXA 森山:韓国は、COMPSAT2 の分解能が高くナショナルセキュリティの関係で出せないが、COMPSAT1 のデータを出している。データを出す枠組み、此处にデータを載せたときのデータポリシー、即ち利用制約を掛ける必要があり、国際災害チャータの場合は第三者配布を禁止しているように、何かを作らなければならない。これを二国間交渉で行なうのは大変なので、纏めて上手くやりたいと考えている。中国は気象衛星 FY-1 のデータを、インドは IRS のデータを載せると言っている。

青江:気象庁の MTSAT データも載せる。

JAXA 森山:気象庁はこの4月から MTSAT のインターネットサービスを始める。我々のノードもそれに類する扱いをして頂ける。

松尾:参加国数の変遷は最初に気になったが、今のお話だと、身を入れて参加するところが、回数を経て落ち着いて来たという要素と、**そうでもない要素⁷**とが半々と思えばいいのか。

JAXA 森山:宇宙機関で無い、**ユーザー機関が増えてきているので、良い方向であると思う⁸**。宇宙機関としてデータを提供できる程度はかなり決まっており、韓国も中国もインドも個別に話をしているので、その安心感から会議に出なくてもいいと考えているのではなかろうかと思う。

⁷ これ以上明瞭な用語が使えないのであろうが、これこそ大切な部分であり、次の発言機会ではもう少し明瞭な言葉が使われている。

⁸ 「良い」と言ってしまうところに問題がある。ユーザー機関の参加が増えていることを、外務省の方々ならどのように認識するのであろうか。

池上:自然災害で本当に困っている国が残っているという感じである。中国は別に津波が来るわけではないし、ということではないか。**インドは被害があったので、多分積極的であろう。⁹**

青江:それだけだと良いが。

松尾:実際に困るかどうかの他に、ヘゲモニー争いのような話が絡んでいるので、その辺りが半々と言う感じですね。

池上:**でも、我々は手の打ちようが無い¹⁰**。

⁹ 希望的観測ではなかろうか。

¹⁰ 手は打てるのではないか。地球観測データの公開に関する基準は、宇宙開発委員会で議論すべき対象であり、今までに定めたものをいくら見直しても構わないと思う。

交戦相手国が利用する、中立な第三国の通信衛星、地球観測衛星を、その交戦国がミサイルで破壊した場合の法解釈が定まっていないのが現状である。国土を攻撃されることは無いにしても、衛星が突然攻撃されることは有り得ない話ではない。打てる手は打とうと努力していただきたい。